



○やってみタイ
授業の冒頭で問題を提示した後、教師が上のイラストをつかって、「今

「やってみタイ」と「ふりカエル」
桂川小学校校長 合澤博之
「今日は何をやってみタイ？」
これは、授業の冒頭で教師が問いかけている言葉です。
桂川小学校の教員は、今年度、「1人1人の子どもが主語になる授業」をテーマに授業改善の研究を行いました。情報技術の発展等によって、世の中は激しく変化しており、「すぐには答えが出せない」「答えがない」問題が世界中に山積しています。そのような未来に生きる子どもたちには、たくさんの知識や、決められたことを正確にこなす技能だけではなく、主体的に学び続け、協力して問題を解決する力が必要であると言われています。
そんな力を育成するため、桂川小学校では、「子どもが主語になる授業」を目指しており、そのため子どもと教師の合言葉が「やってみタイ」と「ふりカエル」です。

日は何をやってみタイ？」と問いかけます。「公式を導きたい」「主人公の気持ちの変化を考えたい」等、子ども達の「主体的に学ぶ意欲」を引き出します。
○ふりカエル
授業の終わりに、学習の振り返りをします。「わかった」「できた」等の自分の学習状況への評価と、「今度はこれをやりたい」等の「次につながる意欲」を引き出します。
「やってみタイ」から「ふりカエル」そして、次の「やってみタイ」へ。この繰り返しを通して、「教師主導の授業から、子どもが主語になる授業へ」と変革させます。そのための授業を教員が互いに交流し、意見を交わし合って研究してきました。
この一年間で取り組んだ研究の結果が、子どもたちの豊かな未来につながることを願っています。
保護者・地域の皆様、一年間の学校教育へのご協力を心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後もよろしくお願ひいたします。



ふりカエル

「未来を豊かに創造する東っ子」を目指して
桂川小学校 校長 薄井純一
本年度の本校教育活動について、次の3点から振り返ります。
①「自ら考え表現する」
全教職員が「子どもが考える場面」や「適切に表現する場面」を大切にした教育活動に取り組みました。特に、国語科における「書く活動」に力を入れました。
取組の継続により、「書きたい、書いたものを他に見せたい。」という東っ子の姿がたまたま見られました。今後は、「どのよう表現するか」、表現の質の向上を図っていきます。
②「互いに認め合う」
本校の特色ある教育活動の1つに、「縦割り活動」があります。異学年でグループをつくり、校内の清掃活動を行ったり、学校行事に取り組みたりしています。活動を通して、上級生は下級生への適切な接し方を理解し、下級生は、その上級生の姿から、上級生のモデル像を学びます。東っ



れしました。
取組の継続により、「書きたい、書いたものを他に見せたい。」という東っ子の姿がたまたま見られました。今後は、「どのよう表現するか」、表現の質の向上を図っていきます。

子が「互いに認め合う」よききっかけとなつています。小規模校のよさを生かした「縦割り活動」を創造し東っ子の心を育てます。
③「粘り強く努力する」
粘り強く取り組むために、「めあて」「見通し」「振り返り」を大切にしました。特に、最大の学校行事である運動会は、6年生が先頭に立ち、めあてを設定しました。練習後には、めあてに対する「振り返り」を行い、次の活動に対する「見通し」をもつ姿がありました。このような「めあて」「見通し」「振り返り」の好循環が、運動会当日の素晴らしい東っ子の姿につながったと思います。
以上、令和6年度本校教育活動の振り返りです。今後も保護者・地域の皆様・関係機関の皆様のご協力のもと、よりよい教育活動の実現に向け努力してまいります。



にしました。特に、最大の学校行事である運動会は、6年生が先頭に立ち、めあてを設定しました。練習後には、めあてに対する「振り返り」を行い、次の活動に対する「見通し」をもつ姿がありました。このような「めあて」「見通し」「振り返り」の好循環が、運動会当日の素晴らしい東っ子の姿につながったと思います。